

の っ け う し

野付牛公園 (北見市)



北見市

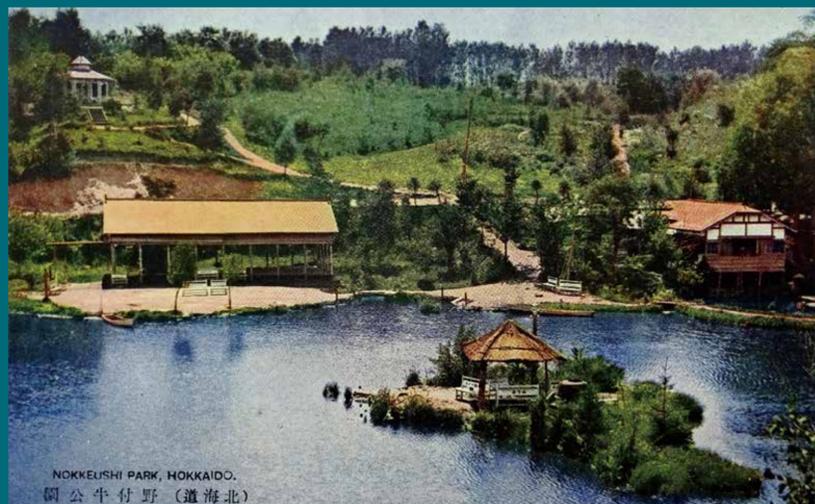


北見が野付牛と呼ばれていた頃の風景が残る公園

紅葉がきれいな秋の野付牛公園

ハッカ生産と鉄道開通で町がにぎわう中、野付牛(のっけうし)町が民間遊園を含む一帯の払い下げを受け、1921(大正10)年に開設された道東で最も古い公園である。池に面して茶屋とおぼしき建物があり、丘陵部にも休憩所や小径が整備されている。春の桜から秋の紅葉まで、花見・逍遙・ボート遊び・野遊会などの場として利用され、絵葉書にもなる名所として親しまれた。戦争末期には荒廃したが、1952(昭和27)年から復興整備に取りかかって面目を一新し、その後施設を加えて現在に至っている。

開拓当時の樹木や、当初造成された池を中心とする公園の骨格が今なお残され、北見市の発足で消えた野付牛の名称を冠する数少ない場所でもある。北見市街の中心部近くにある大きな緑のオープンスペースとして、貴重な存在となっている。



昭和初期の絵はがきに見る当時の野付牛公園の様子
(北見工業大学図書館所蔵より)



現在の野付牛公園周辺(国土地理院提供空中写真(2015年撮影)より)

概要

名称	野付牛公園
所在地	北見市公園町
管理者	北見市
規模	12.1ha
種別等	都市公園(総合公園)
開設年	1921(大正10)年6月4日
告示年	都市計画法告示1952(昭和27)年